

## 秋田県の温泉の現況

秋田大学名誉教授 佐原 良太郎

秋田県内にあるのを大別すると、硫化水素を含む酸性高温泉、海水の成分に似た食塩泉とこれらに属さないものの3種となる。

県の東側で岩手県と接する部分に奥羽山脈がありこれと並行して那須火山帯がある。これに栗駒山（須川岳）、駒ヶ岳、八幡平の焼山等がありその周辺に夫々温泉群がある。南の栗駒山は秋田県、岩手県と宮城県の県境にあり、山頂附近に岩手県側に須川温泉があるだけで秋田県側、宮城県側には一つの泉源がない。周辺には秋田県側に秋の宮温泉群といわれる湯の岱、鷹の湯、新湯（稲住温泉）、湯の又等の温泉、小安温泉群といわれる小安温泉、泥湯、大湯等の温泉がある。この外未利用の赤湯又沢、川原毛と炭酸系含有の湯の沢（冷泉）がある。これらの多くは硫化水素を含む酸性高温泉でいづれも火山性のものと考えられる。先年噴火して有名になった駒ヶ岳の周辺には乳頭温泉群といわれるつる（鶴）の湯、妙湯、かに（蟹）湯、孫六、黒湯等の温泉の外未利用のカラコの湯、大釜、一本松がある。これらのうち酸性のものは黒湯だけで他は中性であり、硫化水素は微量で高温泉である。駒ヶ岳噴火の時に泉質はみられなかった。八幡平の焼山周辺には有名な温泉が多い。玉川、大沼、後生掛、蒸湯、澄川、赤川、トロコ、銭川と志張等がある。このうち蒸の湯は土砂くづれのため一時泉源が埋った。玉川温泉は特に有名で他の火山性温泉と異り硫酸イオンに比し塩素イオンが非常に多い。又附近に特別天然記念物の北投石が存在する。いづれも火山性の特徴のある温泉である。このほか男鹿半島には男鹿温泉群といわれる温泉がある。これらのうち湯本温泉を除いては新しく開発されたもので湯本温泉は昭和のはじめの男鹿地震のため一時とまり約20年後にまた噴出したものである。これらは地理的にみて鳥海火山帯に属すると思われるがその特徴はない。

食塩泉の多くは八郎瀧の東側から秋田市、日本海側の由利郡地方に存在するもの大部分は泉温は低く、成分は海水のものに似ている。この地域は石油々田地域で、大部分は石油又は天然ガス開発のため掘った時出た水で油田水又は天然ガス附随水であろうと思われる。山形県との県境に最近爆発した鳥海山があるが温泉は殆どなく、油田水性の食塩泉で占められているのは不思議である。

米代川流域には湯瀬、大湯、大滝、日景、矢立等の温泉がある。これは前の2つのどれにも属さないものである。この中日景温泉は硫化水素を多く含み、炭酸ガスの多い食塩泉で珍らしいものである。この近くにある矢立は鉄を多く含む炭酸泉（冷泉）で不思議な存在である。

最近新エネルギー源として地熱利用が大きくなりあげられ、火山地帯で多くテストボーリングが行なわれる様になってきた。秋田県でも八幡平ではすでに地熱発電所が出来ている、又栗駒山周辺でも計画され一部ではボーリングが行なわれている。一方八幡平の温泉の中には最近泉温が低下し、赤川、銭川温泉では営業停止する状態である。これらの業者は地熱開発のためのボーリングがその原因であるといっているが、国策によるボーリングということでその者は大きくない。泉温の低下がボーリングの影響であるというのは軽々にはいえず原因は簡単なものでないであろう。栗駒山周辺でもあるいはこの様なことがおこるかもしれず、原因追及は必要であろう。